

実践授業報告



※ この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の下に提供されたものを使用しています。

※ 参加者の先生、児童・生徒さんの原文をいかして掲載しております。一部ばらつきがありますが、ご了承ください。

「どうぶつ おとあそび」を たのしもう

実践場所	神奈川県	横浜市立本町小学校	実践者	石川 舞
対 象	1年		時間数	6時間
担当教科	全教科		実践教科	生活・図画工作・音楽
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の様子を音で表現することを通して、タンザニアにいる動物を身近に感じる。 ・身の回りの音の面白さに気づき、音楽的な約束事に基づいて音遊びをする。 			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	【タンザニアって知ってる？～外国について 知ろう～】生活 ・担任がタンザニアの学校に行くことを伝え、その友達と仲良くなるために、折り紙を折る。		【使用したもの】 ・世界地図 ・白地図 ・折り紙
	2	【どんな楽器があるのかな？～楽器の鳴らし方を知ろう～】音楽 ・タンザニアで演奏されているジャンベ(たたく)、カリンバ(はじく)を知る。 ・自分たちでもつくれそうな楽器を話し合い、材料を準備する。		・ジャンベ ・カリンバ
	3, 4	【自分だけの手づくり楽器をつくろう】図画工作 ・自分たちでも身近な材料を使って、手づくり楽器をつくる。(段ボールの太鼓、輪ゴムをはじくギター、ペットボトルや空き缶のどんぐりマラカスなど)		・段ボール ・輪ゴム ・お肉のトレー ・ペットボトル ・空き缶 ・どんぐりなど
	5	【動物の様子をイメージして、楽器を選ぼう】音楽 ・タンザニアのミクニ国立公園に住んでいる動物を知る。(インパラ、シマウマ、キリン、ゾウ、ライオン) ・動物の様子をイメージして、それに合う楽器を一人一人選ぶ。 (例)インパラ→足が細い、ジャンプする…手作り楽器の箱太鼓 ライオン→どっしりしている、大きい…コンガ		・動物の写真 ・ウッドブロック ・コンガ ・エッグシェイク
	6	【動物の様子を楽器で表現しよう】音楽 ・速度や強弱などの音の仕組みを活かすことで、動物の様子を音楽的に表現することを楽しむ。 ・動物が何をしている様子なのかイメージして、それを楽器で表現する。 (例)シマウマが走っている→ジャンベを段々速く、強くたたく		
成 果	子どもたちの中に「アフリカ」や「タンザニア」、「サバンナ」という語彙が深く浸透していったので、本を読んでいて「アフリカのことを書いてあるよ。」という呟きを耳にした。また、1年生の学習は、動物に関連する単元が多いので、他教科にわたって幅広くつながりをもたせることができた。			
課 題	タンザニアで使われている楽器の確保。クラス全員がアフリカの楽器で発表できれば良かった。1回目、教師が赴くタンザニアの学校の友達と仲良くなるために折り紙を折った活動が導入として扱いに留まってしまった。			
備 考	カリンバは、タンザニアで購入することができた。動物の写真は、研修でミクニ国立公園を通過した際に、撮影したものも使用した。			

[授業実践の詳細]

1 時限目 「タンザニアって知ってる? ~がいこくについて しろう~」生活

1 子どもの活動の流れ

- ① 担任がJICAの取り組みでタンザニアに行くことを伝える。
- ② タンザニアの位置当てゲームをする。中国大陸、アメリカ大陸、アフリカ大陸の中から選ぶ。
 - ・地図を見なれていない子どももいるため、日本地図を見せ自分たちの住んでいる横浜を示してから、世界地図の日本の位置を確認した。
- ③ タンザニアまでの行き方を伝える。
 - ・飛行機で20時間、2つの飛行機に乗る。
 - ・時差が6時間（日本が昼12時のとき、タンザニアは朝の6時）。
- ④ タンザニアについて何が知りたいか隣り同士で話し合い、発表する。
- ⑤ 担任がタンザニアの学校に行くことを伝え、その友達と仲良くなるために折り紙を折る。

この時限のねらい

JICA のことやタンザニアについて知り、興味をもつ。



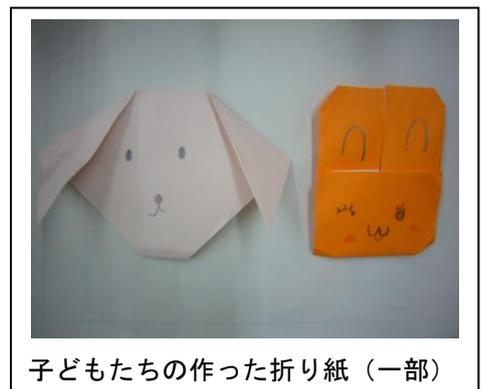
日本地図と世界地図を用いた板書

2 子どもの活動の成果・反応

◇JICA 横浜事務所の近隣校だけあり、「JICA って聞いたことあるよ。赤レンガに行くときに前を通ったよ。」という声もあった。また、「初めて知ったな。学校の近くにあるんだな。」と初めて名称を聞いた子どもたちもいた。

◇タンザニアでは、「ご飯、公園、動物、トイレ、遊び、植物、洋服、海、学校を見てきてほしい。」（これはほんの一部）と子どもたちから要望が上がった。一つ一つ具体的な名詞を上げていた。これは、アフリカが舞台の絵本を読み聞かせしていたので、アフリカの視覚的な情報を子どもたちなりに感じ取っていて「どうも日本とは文化の違いがたくさんありそうだな。」という国際理解の捉えが芽生えていたからだと感じている。

◇クラスでは、休み時間に友達同士で集まって折り紙をしているため、折り紙を折ること自体を楽しんで活動していた。「お気に入りのねこちゃんを折ろう。」とか「きれいなのがいいな。お花にしよう。」など遠くに住む相手のことを考えながら折る様子が見られた。



子どもたちの作った折り紙（一部）

3 使用した教材

<教材 1> 日本地図 <教材 2> 世界地図

2

時限目「どんな楽器があるのかな～楽器の鳴らし方を知ろう～」音楽

1 子どもの活動の流れ

- ① 音楽の教科書「がっきをつくって みよう」を見ながら、「ふく」、「ふる」、「うつ」鳴らし方があることを知る。
- ② タンザニアで演奏されているジャンベ（たたく）、カリンバ（はじく）を知る。
- ③ 自分たちで作りたい楽器を話し合い、材料を準備する。

この時限のねらい

身の回りの音の面白さに興味・関心をもち、楽器づくりに進んで取り組む。

2 子どもの活動の成果・反応

◇タンザニアで購入したカリンバは、だれでも簡単に音を出すことができ、しかも丈夫に作られていたので、子どもたちが自由に触れられる環境を設定できた。また、音色が人を呼び、違うクラスの子どもも演奏していた。オルゴールのような音色なので、強くはじいても耳触りに感じる事がなく、「これタンザニアの楽器だよ。」と、休み時間に入れ替わり立ち替わりにカリンバを手にする姿が見られた。

◇自分たちでもつくれそうな楽器を話し合うと、「輪ゴムをはじいたら音が出たよ。」という経験から、カリンバのような楽器を自分たちでもつくれそうだという意見が出た。

◇タンザニアの缶飲料には、有名なキリマンジャロがプリントされているものがある。タンザニアコーナーにその空き缶を置いたら、プルタブが缶の中に落ちていた。すると、その缶をふり「カラ カラン」という音色を楽しむ様子が見られた。これは、音楽の教科書にあった「『ふる』ペットボトルにもものを入れて鳴らす楽器」の紹介につなげることができた。



カリンバの演奏風景



キリマンジャロの絵柄が入った
350ML 缶

3 使用した教材

<教材1>「おんがくの おくりもの1」(教育出版)

<教材2> 写真



ジャンベ



踊りながら、ジャンベを手でたたく様子



ジャンベをバチでたたく様子



カリンバ（親指ピアノ）



カリンバを購入した店内



弦を指ではじく楽器

3 時限目

4 時限目「自分だけの 手づくり楽器を つくろう」図画工作

1 子どもの活動の流れ

- ① 持ってきた身近な材料から、どんな楽器ができるか話し合う。
- ② 手づくり楽器をつくる。

この時限のねらい

身の回りの材料の様々な特徴に気付き、試しながら手づくり楽器をつくることを楽しむ。

2 子どもの活動の成果・反応

◇カリンバに興味をもっていた子どもたちは、発泡スチロールのトレイに輪ゴム（5～6本）を通した手づくりカリンバをつくっていた。その際、耳を輪ゴムに近付け、音色を確かめながら取り組み、自分の楽器の音色に興味をもつ姿が見られた。

◇ジャンベに興味をもっていた子どもたちは、空き箱を用意し、手や割り箸に輪ゴムを巻いた手づくりマレットでたたき、たたくものによって音色が変わることを楽しむ姿が見られた。

◇空き缶にプルタブをいれた音色に興味をもっていた子どもたちは、空き缶やペットボトルを用意し、プルタブや遠足で拾ってきたどんぐりなどを入れて、入れる量や入れるものによって音色が変わることを楽しむ姿が見られた。



カリンバをまねた手づくり楽器



ジャンベをまねた手づくり楽器



音色の違いを確かめている様子

3 使用した教材

<教材1> 「おんがくの おくりもの1」（教育出版）

<教材2> 「リサイクル楽器を楽しもう

1 身近な楽器にチャレンジ！！」

（汐文社）

5

時限目「動物の様子をイメージして、楽器を選ぼう」音楽

1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアのミクニ国立公園に住んでいる動物を出し、どんな様子でくらしているか話し合う。
(インパラ、シマウマ、キリン、ゾウ、ライオン)
- ② 動物の様子をイメージして、それに合う楽器を一人一つ選ぶ。
(カリンバ、ジャンベ、ウッドブロック、コンガ、エッグシェイク、手づくり楽器)
- ③ 速度を変えながら、自分の表現したい音の素材を整理し、動物の様子に合う音を探す。

この時限のねらい

表現する動物とそれに合う楽器を選び、速度を変えながら動物の様子に合う音を探す。



通過したミクニ国立公園



ミクニ国立公園の休憩所にて



インパラ



シマウマ



キリン



ゾウ

2 子どもの活動の成果・反応

◇ミクニ国立公園で撮影した動物の写真は、「何の動物が隠れているかな。」とクイズ形式にしながら紹介することで、草原にまぎれて探し辛かった自分たちの経験を子どもたちに体験させることができた。子どもたちは、「何だろう。」と思うことでより写真をじっくり見て、「あ、シマシマがあるからシマウマだ。」「黒っぽいからゾウかな。」とサバンナにいる動物の様子を楽しみながら感じ取っていた。

◇子どもたちは自分の表現したい動物の様子を決めてから、さまざまな楽器の音色を聴き比べ「この楽器で表現しよう。」と選んでいった。



ジャンベをたたく様子

3 使用した教材

<教材1> 「おんがくの おくりもの1」(教育出版)

6 時限目「動物の様子を楽器で表現しよう」音楽

1 子どもの活動の流れ

- ① 速度や強弱など音の仕組みを生かすことで、動物の様子を音楽的に表現することを楽しむ。
- ② 動物が何をしている様子なのかイメージして、それを楽器で表現する。

この時限のねらい

身の回りの音の面白さに気付き、音楽的な約束事に基づいて音遊びをする。

「うつ」楽器	「はじく」楽器	「ふる」楽器
手作り楽器	手作り楽器	手作り楽器
ジャンベ (タンザニアの楽器)	カリンバ (タンザニアの楽器)	エッグシェイカー
コンガ		
ウッドブロック		

手作り楽器
(3・4時限目につくった楽器)

タンザニアで教師が実際に触れた楽器(写真、映像あり)



使用した楽器の一覧



子どもたちが表す動物の様子と楽器をまとめた

2 子どもの活動の成果・反応

◇研修でタンザニアのミクミ国立公園を通過した際、自分がバスの中から見る事ができた動物は、その時の動物の動きを子どもたちに話すことができ、動物の様子を表現する際の支援になった。

◇子どもたちは、速度を意識し「インパラが走っているところ」や「ゾウが休んでいるところ」などを表現していた。また、自然と同じ楽器の友達との演奏になり、「シマウマが寝ているところから、走っているところ」を表現する姿も見られた。



コンガを演奏する様子

3 使用した教材

<教材1> 「おんがくの おくりもの1」(教育出版)

■ 全体を通して

1 授業の様子



ジャンベでシマウマが走っている様子を表している



カリंगाをまねた手作り楽器（ギター）



強弱を変えたカホンの演奏を楽しむ様子



カリンバでインパラが走る様子を発表している

2 参考文献・資料

- 1) 「旅の指差し会話帳 ケニア」 宮城裕見子／著 (情報センター出版局)
- 2) 「ハンダのびっくりプレゼント」 アイリーン・ブラウン／作 (光村教育図書)
- 3) 「いちばんのなかよし」 ジョン・キラカ／作 ジョン・キラカ／作 (アートン)
- 4) 「アフリカの音」 沢田としき／作・絵 (講談社)
- 5) 「そのこ」 谷川俊太郎／詩 (晶文社)
- 6) 「いつもみていた」 ジャネット・ウィンター／作 (福音館書店)
- 7) 「ハイエナのデコとボコ」 宮西達也／作・絵 (ひかりのくに)
- 8) 「おばあちゃんにおみやげを」 イフェオマ・オニェフル／作・写真 (偕成社)
- 9) 「リサイクル楽器を楽しもう 1 身近な楽器にチャレンジ!!」 上畑美佐江／作 (汐文社)

◆ 成果と課題

【成果】

4月に国語「おはなし よんで」の学習で、アイリーン＝ブラウン作の『ハンダのびっくりプレゼント』を読み聞かせしていた。これは、アフリカのケニアに住む女の子ハンダが主人公のお話になっていて、繰り返しの展開が一年生に心地よいお話である。

(あらすじ)

ハンダは友達にあげる果物をかごに入れ、それをを頭にのせて歩き出します。その途中に、かごの中の果物は次から次へと、それぞれの果物を好きな動物たちが取ってしまいます……。



アフリカ関連の本コーナー

(「ハンダのびっくりプレゼント」は、右奥)

中央図書館から借用後、学校で購入した本もある

そのため、「読み聞かせで聞いた絵本『ハンダのびっくりプレゼント』のハンダがいる所がアフリカだよ。」と学習と絡ませながら話すことができた。子どもたちには、アフリカには動物がいたり、荷物を頭に乘せて運ぶ文化があったりすることを絵本を通して伝えることができた。また、この本は、同世代の子どもが主人公になっているので、アフリカの友達を身近に感じさせることができた。

教室の入り口にタンザニアコーナーを設け、購入した楽器のカリンバやアクセサリ、ティンガティンガの絵などを飾った。また、授業の合間などに、教師がカリンバを演奏し、オルゴールのような独特の響きや演奏の仕方に興味をもてるようにした。

そのため、タンザニアの楽器に興味をもち、この授業までに全員がカリンバをはじき、音を出す経験をすることができた。



タンザニアコーナー

集めた材料は、算数「かたち あそび」や図画工作「どうぶつむらの ピクニック」でも使用した。同じような材料を使う単元を同時期にまとめたことで、家庭でも豊富な材料を用意してくださった。子どもたちは、「カリンバみたいに輪ゴムを何本もならべたいな。」「たたくといい音がする箱がお家にあったよ。」などと完成をイメージしながら材料を集めていた。

【課題】

開発教育という言葉は、今回の研修を通じて初めて学ぶことができた。実際に開発教育の研修を行い、私を感じたことは、「①高学年向けのプログラムが多い」「②教科として開発教育を行うことができれば、開発教育がより広がっていくのではないか」という2点でした。

これらをふまえ、「①低学年での開発教育づくり」「②学習指導要領の範囲内での教材づくり」をねらいにして、教材研究を行った。

その中で音楽の「がっきを つくって みよう」、「ようすを おんがくで」（教育出版 1年）を合わせた学習を選び、「生活科（1時限目）」、「音楽科（2時限目、5、6時限目）」、「図画工作科（3、4時限目）」の3つの教科をまたいだ形でしかも音楽に重点をおいて学習を進めていった。そのため、1時限目に、教師が赴くタンザニアの学校の友達と仲良くなるために折り紙を折った活動が導入としての扱いに留まってしまった。折に触れて、折り紙をタンザニアの友達に渡せたことやタンザニアの学校の様子を伝えることはできたが、この学習の流れに入れることはできなかった。その点では、学習指導要領に位置付けて開発教育を行っていく困難さを感じた。

◆ 参考資料



カリンバ



キリマンジャロの絵柄が入った
350ML 缶



テレビ神奈川の番組を見る子どもたち